

士和田湖星空キャンプ場

責林県士和田市大学奥瀬学字樽部十和田市10
車でお越しの方▶東北自動車道・十和田ICより
車で約00分。八戸駅より約1時間半。七戸十和
田駅より約1時間00分。青森駅より約20時間。
電話：0000-00-0000
FAX：0000-00-0000
E-mail：xxxxxxx@xmail.ocm
HP：http://www.xxxxxx.com

▶流れたあとだと言われたりしていた、このぼんやりと白いものがほんとは何かご承知ですか先生は、大きな黒い星座の図の、上から下へ白くけぶった銀河帯のようなところを指しながら、みんなに問いをかけました。



の小さな星に見えるのです。ジョバンニさんそうでしょう」
ジョバンニはまっ赤になってうなずきました。けれどいつかジョバンニの眼のなかには涙がいっぱいになりました。そうだ僕は知っていたのだ、もちろんカムパネルラも知っている、それはいつかカムパネルラのお父さんの博士のうちでカムパネルラといっしょに読んだ雑誌のなかにあったのだ。それどころでなくカムパネルラは、その雑誌を読むと、すぐお父さんの書斎から巨きな本をもってきて、ぎんがというところをひろげ、まっ黒な頁いっばいに白に点々のある美しい写真を二人でいつまでも見たのでした。それをカムパネルラが忘れるはずもなかったのに、すぐに返事をしなかったのは、このごろぼくが、朝にも午後にも仕事がつらく、学校に出てももうみんなともはきはき遊ばず、カムパネルラともあんまり物を言わないようになったので、カムパネルラがそれを知ってきどくがってわざと返事をしなかったのだ、そう考えるとたまらないほど、じぶんもカムパネルラもあわれないような気がするのでした。先生はまた言いました。
「ですからもしもこの天の川がほんとうに川だと考えるなら、その一つ一つの小さな星はみんなその川のその砂や砂利の粒にもあたるわけです。またこれを巨きな乳の流れと考えるなら、もつと天の川とよく似ています。つまりその星はみな、乳のなかにまるで細かにうかんでいる脂油の球に

もあたるのです。そんなら何がその川の水にあたるかと言いますと、それは真空という光をある速さで伝えるもので、太陽や地球もやっぱりそのなかに浮かんでいるのです。つまりは私どもも天の川の水のなかに棲んでいるわけです。そしてその天の川の水のなから四方を見ると、ちょうど水が深いほど青く見えるように、天の川の底の深く遠いところほど星がたくさん集まっています、したがって白くぼんやり見えるのです。この模型をごらんください」先生は中にとくさん光る砂のつぶのはいった大きな両面の凸レンズを指しました。

光る粒すなわち星

「天の川の形はちょうどこんなのです。このいちいちの光るつぶがみんな私どもの太陽と同じようにじぶん光っている星だと考えます。私どもの太陽がこのほぼ中ごろにあつて地球がそのすぐ近くにあるとします。みなさんは夜にこのまん中に立ってこのレンズの中を見まわすとしてごらんください。こちの方はレンズが薄いのでわずかの光る粒すなわち星しか見えないでしょう。こちやこちの方はガラスが厚いので、光る粒すなわち星がたくさん見えその遠いのはぼうつと白く見えるという、これがつまり今日の銀河の説なのです。そんならこのレンズの大きさがどれくらいあるか、またその中のさまざまな星についてはもう時間ですから、この次の理科の時間に



お話します。では今日はその銀河のお祭りなので、みなさんは外へでてよくそらをごらんください。ではここまでです。本やノートをおしまいなさい」
そして教室じゅうはしばらく机の蓋をあけたりしめたり本を重ねたりする音がいっぱいでしたが、まもなくみんなはきちんと立って礼をすると教室を出ました。
ジョバンニが学校の門を出るとき、同じ組の七、八人は家へ帰らずカムパネルラを

ジョバンニが学校の門を出るとき、同じ組の七、八人は家へ帰らずカムパネルラをまん中にして校庭の隅の桜の木のとこに集まっていた。こしらえて川へ流す烏瓜を取りに行く相談らしかったのです。元気に手をあげたカムパネルラが、やはりもしも立ち上がったままやはり答えができませんでした。

「ではみなさんは、そういうふうな川だと言われたり、乳の流れたあとだと言われたりしていた、このぼんやりと白いものがほんとは何かご承知ですか」先生は、黒板につるした大きな黒い星座の図の、上から下へ白くけぶった銀河帯のようなところを指しながら、みんなに問いをかけました。
カムパネルラが手をあげました。それから四、五人手をあげました。ジョバンニも手をあげようとして、急いでそのまやめました。たしかにあれがみんな星だと、いつか雑誌で読んだのでしたが、このごろはジョバンニはまるで毎日教室でもねむく、本を読むひまも読む本もないので、なんだかどんなこともよくわからないという気持ちです。ところが先生は早くもそれを見つけたのでした。
「ジョバンニさん。あなたはわかっていてるでしょう」ジョバンニは勢いよく立ちあ

がりましたが、立ってみるともうはつきりとそれを答えることができないのでした。
ザネリが前の席からふりかえって、ジョバンニを見てくすくすわらいました。ジョバンニはもうどきまぎしてまっ赤になってしまいました。先生がまた言いました。「大きな望遠鏡で銀河をよく調べると銀河はだいたい何でしょう」やっぱり星だとジョバンニは思いましたが、こんどもすぐに答えることができませんでした。先生はしばらく困ったようすでしたが、眼をカムパネルラの方へ向けて、「ではカムパネルラさん」と名指しました。するとあんなに元気に手をあげたカムパネルラが、やはりもしも立ち上がったままやはり答えができませんでした。
先生は意外なようにしばらくじつとカムパネルラを見ていましたが、急いで、「では、よし」と言いながら、自分で星図を指しました。「このぼんやりと白い銀河を大

空と湖のキャンプ場

士和田湖星空キャンプ場

空と湖と星空と焚き火と